

公益財団法人日本文学振興会

令和2年度事業報告書

1. 令和2年5月29日（水）午後3時より、文藝春秋ビル内会議室にて第27回松本清張賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

千葉ともこ「震雷の人」

その贈呈式は9月11日（金）午後3時より東京會館にて開催、受賞者に正賞時計、副賞500万円を贈呈した。

2. 令和2年6月11日（木）午後3時より、文藝春秋ビル内会議室にて第51回大宅壮一ノンフィクション賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

小川さやか『チョンキンマンションのボスは知っている アングラ経済の人類学』（春秋社）

その贈呈式およびは8月6日（木）午後3時より文藝春秋社内会議室にて開催、受賞者に正賞100万円と副賞の日本航空株式会社提供による国際線往復航空券を贈呈した。

3. 令和2年7月15日（水）午後2時より、築地「新喜楽」にて第163回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 高山羽根子「首里の馬」（「新潮」3月号）

遠野遥「破局」（「文藝」夏季号）

直木賞 馳星周『少年と犬』（文藝春秋刊）

その贈呈式は8月28日（金）午後3時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

4. 令和2年10月6日（火）午後5時より、築地「新喜楽」にて第68回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の5件の授賞を決定した。

①林 真理子

40年ちかい文筆生活のあいだ、現代社会に鋭く切り込む小説から

歴史、古典を題材にした作品まで多岐にわたる創作、昭和より続く

「週刊文春」連載エッセイなど、常に最前線で活躍を続ける

②佐藤 優

『国家の畏』で2005年にデビュー以来、神学に裏打ちされた深い知性をもって、専門の外交問題のみならず、政治・文学・歴史・神学の幅広い分野で執筆活動を展開。教養とインテリジェンスの重要性を定着させる

③滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール

今年3月、コロナ感染が拡大するなか、オペラ「神々の黄昏」の無観客上演をいち早く決断。ユーチューブでの配信は海外からを含めて41万人が視聴し、コロナ時代の文化イベントのありかたに一石を投じた

④秋田魁新報 イージス・アショア取材班

2017年の配備計画浮上後、地元紙として計画の妥当性を調査・検証。防衛を専門とする記者がいらないなか、地道かつ多角的な取材で現地調査のずさんな内容を暴く。本年、同計画は断念に追い込まれた

⑤篠山紀信

半世紀にわたりスターから市井の人まで、昭和・平成・令和の時代を第一線で撮影。その業績は、2012年より7年間全国を巡回し、のべ100万人を動員した個展「写真力 THE PEOPLE by KISHIN」に結実する

その贈呈式は12月4日（金）午後3時よりオークラ東京にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

5. 令和3年1月20日（水）午後3時より、築地「新喜楽」にて第164回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 宇佐見りん「推し、燃ゆ」（「文藝」秋季号）

直木賞 西條奈加『心淋し川』（集英社）

その贈呈式は令和2年2月18日（木）午後4時より帝国ホテルにて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。